

中村俊定文庫
文庫 18
568
2





舟のり



平坊

舟のりやう
舟のりやう
舟のりやう
舟のりやう
舟のりやう

也

花供養集

一石施主料三友 表六句金三朱
本無方二友 奇仙日二夏

右二月切芭蕉堂近也此下料子係白又ハ
日限お延、白ハお延年々集、取かハ、芭蕉堂
古後、の先、ハ、百、合料、係、子、の、電、下、ハ、
花場三頭之中

洛東雙林寺門前
芭蕉堂執事

一 谷 埋 じ 暮 暮 ち ぶ ぶ ぶ の ち
 二 倉 人 の 塚 暮 暮 ち ぶ ぶ ぶ
 三 一 信 一 谷 一 暮 暮 ち ぶ ぶ ぶ
 四 今 日 一 山 一 ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ
 五 山 一 暮 暮 ち ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ
 六 人 一 暮 暮 ち ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ
 七 山 一 暮 暮 ち ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ
 八 山 一 暮 暮 ち ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ
 九 山 一 暮 暮 ち ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ
 十 山 一 暮 暮 ち ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ

四季各吟

一 山 一 暮 暮 ち ぶ ぶ ぶ 神の塚 五浦
 二 山 一 暮 暮 ち ぶ ぶ ぶ 山 一 暮 暮 ち ぶ ぶ ぶ
 三 山 一 暮 暮 ち ぶ ぶ ぶ 山 一 暮 暮 ち ぶ ぶ ぶ
 四 山 一 暮 暮 ち ぶ ぶ ぶ 山 一 暮 暮 ち ぶ ぶ ぶ
 五 山 一 暮 暮 ち ぶ ぶ ぶ 山 一 暮 暮 ち ぶ ぶ ぶ
 六 山 一 暮 暮 ち ぶ ぶ ぶ 山 一 暮 暮 ち ぶ ぶ ぶ
 七 山 一 暮 暮 ち ぶ ぶ ぶ 山 一 暮 暮 ち ぶ ぶ ぶ
 八 山 一 暮 暮 ち ぶ ぶ ぶ 山 一 暮 暮 ち ぶ ぶ ぶ
 九 山 一 暮 暮 ち ぶ ぶ ぶ 山 一 暮 暮 ち ぶ ぶ ぶ
 十 山 一 暮 暮 ち ぶ ぶ ぶ 山 一 暮 暮 ち ぶ ぶ ぶ

地

二

揺りしりし路し山の眩し、
 雁ののびる行しみのやし、
 不存
 一羽と衣の身やりの月、
 214の楳く、角か、
 夫はも、
 代本の、
 如竹

中かや、
 言の、
 忍、
 新、
 遠、
 英子

元山とてけしんけの 伊水ハ
刺船の女又也ヤ 生火玉
夏もや 道の花散く 桐火氣
河 身に 野水 流の 桂ハ 佳況
山依の早く 足む也 中め 峰
心 扇 下 降と 行し 月
み 一 世界 切り ちの 物

看新や 岩の懐 ぬれり 二耳
下 ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ
り ぬれ の ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ
か ぬれ の ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ
甲 ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ
と ぬれ の ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ
秋 ぬれ や 須磨 の ぬれ の 古 ぬれ

草——入月冷——、朽れ下、
 筆——様画ヤ——、人、
 社土、戸と、の、活、
 一、奈良の田、
 聖——入、

春、由、也、リ、ハ、
 峰の坊、
 存喬

因、年、を、賤、う、世、事、の、憂、
 夜、半、の、窓、
 月、と、
 香、
 夏、の、月、
 夜、
 也、
 也、

市の入り込静し〜の音 子陽
 帰るぬき〜 涙れ涼き〜
 静の静や びねの 栞ね
 ち〜 柳や けし〜 柳も
 陽ちや ちねの 山宮の 音
 早れや さら〜 ぬ柳の 音
 ち〜 柳の 音〜 柳の 音

川魚れ〜 した 川
 川魚れ

春雨や ぬん〜 河原 霞
 綿の 綿〜 襪子
 笑栗や 球の中〜 心 素
 方圓〜 海〜 水
 月の 夜〜 梅の 素

昂々やー、かみりの福アまの月、
 鹿の声、有に都の、土彦小、
 下、新履、厚、若し、河の、注、叩、
 揺、れ、る、と、袖、あ、さ、い、れ、を、折、下、
 除、き、く、周、の、時、す、る、管、小、
 花、の、う、ろ、く、伏、猪、の、床、と、套、の、以、
 辛、い、煎、子、に、く、え、さ、く、菓、食、
 、 、 、 、 、 、

ち、め、終、る、義、く、構、と、手、の、下、
 降、り、さ、り、人、多、く、
 踏、ま、し、る、幸、や、
 榻、く、通、し、る、お、も、ろ、と、十、夜、小、
 柳、の、下、蛙、を、く、り、
 扇、の、と、れ、
 三、夕、れ、家、を、去、り、
 角、力、り、ふ、
 、 、 、 、 、 、

海美

柳也

蕪取心一をと奪くる

その方く湯のわさむる 里意

き新の存くまよふ下厨

くせゆをすもほま理也早の

春の所灯す名りく 小仙と

そや定ふあ月一まるとまよふ 如泉

湯の妙や更り夏の月

焔見やまは里の卯ふれ

さうあひまをう上の風情

相のや 稻行のふれ 小豆飯 穂阜

灌はや星のますま ちねの

りかきくまらふなまわくふ

行面ハ 路の葉川 好のち

雲のりももきし乳との心はけし
松花

夕影を照らし小かほ

夕暮の 孤のりと 石花

影し山里のまき ちえくふ

ちあひの 夕や 影のたのしみ
素心

夕月を照らしちかやちか

ちかやちか 影のりとのり

あまのりかきしちかやちか
素心

ほろりれつとせりり 春の凡
可留

深き井や ちかやちか

深き井や ちかやちか

ちかやちか ちかやちか

ちかやちか ちかやちか
民五

割縁一翫家のむめは
稲妻くるとまよ 海舟
心くまの 捨 居るは
ちりともや 蝶こいせ 深き
夏のまゝ 風を おとあけ
舞のま 水乃 音の 成るは
初まの 庭のまの ぬえ

曲水や手く系あ月の
恋く 左娘 物あふ 申は
出まら 廊 妻性才が
四海の 孫のま 縁突
いれりの 成りこら なるは
紫のま 散るま 朝は
おのま ねら ぬの 情

花散る地へ入るる月

竹の骨折を〜凡の柳は 壬之

ふ上〜十〜の鳴る 蛭の音

ま〜い〜い〜水〜心や秋の色

鳴り枯れむ〜し〜し〜津衣ろ

風の向〜見何〜花や海の花 離集

詩と〜向人〜
簞

月影も甲斐の秋や 水

ひ〜ゆ〜子 雲の標〜枇杷のど

〜ゆ〜や〜〜ぬ凡の影は 菅那

草うらの夜へ 手ぬるのさし 布

秋の暮る〜し〜眠〜帰る人

ぬ〜ら〜ぬ 芥と〜る水の音

新かぶぶさうきまの 始ふ 沙亮

冬かきいりいりのきき 扇ふ

下りまきききききききの松

松の枝はほそく雪のけぬ執

風のころかき動 後柙 吾夕

けとや墨原の庵 けけ

山のぼろ末の海 神月お

争いの骨 氷迷り ぬぬ

山吹のぬまの玉 如か 翠雀

蟬一啼 ぬま印きの古きふ

名月や 猶 笛ききききき

あやのきき 足跡 岸 岸 岸

川下 拾ふ くら 柙 柙

鶴の心 けりや 入 振のけり

るりや一ね 踏々十の房
糸入やや 六條のうらひ
河のうらひ 初雪のうらひ
雪のぬき 子にほのぼの
うらひのけい 卯のあけの月
月と吹雪も 隔るうらひ
打雪のうらひ 雪のうらひ
愚雀

山行のうらひ 世の中の花のうらひ

天津星 柳のうらひ 殊を 都事
月かやけり 浮きのうらひ 夏衣
冬月や 頂のうらひ 秋衣も
雪のうらひ 枯ぬるうらひ 冬衣
雪のうらひ 川越のうらひ 冬衣
夜静

多り病〜送つ〜逢ふ〜枝のぶ
 漸〜徳の夜す〜減る〜妙のふ
 氷〜ぬ〜心〜ふ 歸りの色
 山〜嶺〜愛〜居水〜下 雪を吞ぬ 風戸
 多〜種 明〜香 蓮の 浮〜き〜ふ
 漸〜と 桔 授〜る〜ふ〜妙のふ
 多〜り 那 金 矣の 轄と 多〜り〜ふ

都〜と 下 洗 淨〜る〜ぬ〜玉
 内〜と 行〜り〜り 刻 舞〜心 宿 下
 却〜と 可 也 白〜と 千里 妙のふ
 障 氷〜ぬ〜ふ 見 妙の 音 され
 手 ぬ〜と 橋 下〜と 寺 下 ぬ 現 由 下
 内〜と 下 善 下 妙の 下 下 下
 多〜と 下 下 下 下 下 下 下

飄〜ふ
 飄〜ふ
 飄〜ふ

飄〜ふ
 飄〜ふ
 飄〜ふ

飄〜ふ
 飄〜ふ
 飄〜ふ

若くはの目しえまひつ協 なる香

雪の峰の峰し堂の先ト

月や先橋桶の溢るる月

より水や流るる水

春の白や無風の空と并ぬ 南枝

夏の水移る大層の僧の暮

秋の山と雲とわらふ 芳点

望月 揚子舟のま

浮るる舟も池の 残月 仙路

川を渡る舟も月をたが 船の暮

紙の丸 世も村のりう 妙の暮

月を渡る舟も月をたが 船の暮

一連の 望月 舟 李曉

夏の水移る大層の僧の暮

多分信も暗葉々として角カト
 赤かりか赤れ葉山子ア多の岩
 二ア〜三〜女桜のよしのヨヤト
 多分と 桜の多分の 葉ト
 虫を食や 糸糸の多分の葉が
 花の 次々〜 細〜 花のち
 膝ねや 梅の無えの人の氣
 高

利〜ら 多れつり〜 田松
 手〜ゆのほ〜〜 多分の
 枯〜〜 花の多〜 少ト
 山〜〜 山や向〜 山〜
 梅〜〜 多〜 多〜
 春の雨
 楚竹
 南氏
 一泉

厚氷のぬけしきりて 雪は

行かぬも 眠る夜ありし 柳月 杜唐

身よりのや 一足ぬる けり

何れもよりのちよりの月見は

水川や 振ふるよ 茶の湯りる

尾の如く 雉子の 陰根 蝶星

涼やと ちよりの月見 夜は

岩角や ちよりの 舞の おく

ちよりの 流し 眠る 凡る 水

ちよりの ちよりの ちよりの 戸谷

御 ちよりの ちよりの ちよりの 乙吉

ちよりの ちよりの 一夜の 雨と 羽子

土よりの ちよりの ちよりの ちよりの

明力やうるはは世に様上り
 雪新や晴る。床のまゝらま
 刺のめくろく梅。松下
 障子のあはれさるやうる
 葉く枝くや。鶴の山は
 冬梅とくは月辛さくか
 夕日やかきく系ハ。あれ
 珉文

蝙蝠や芥生はりの二月
 有き。一層園をわぬや
 後庇 珉文 びちくく
 山けや 扇の梅。まのう
 中庭く 水鏡の初くうる
 柳くや 春の上やく 日の色
 白くぬ 高くく けりく
 園六

何れもさうも梅の魁也 葉長
八羽やほくはつ 秋のよ

峯入のふらぬい白の 花下 まで

造固よぬくさよのり 水併

蝉やうきうき 心柄 星も

水仙やゆきまきり 逆下

あけや人の目くら 望星 雅高

際まきり 麻りん 夕や

晴ふぬ 移ぬし 蘇のよ

あけやちきり 夕や

あけや 瓜のの ちの尻 彦吼

あけや 扇のの ちの尻

あけや ちの尻 富の月

祇毛くわく明ももるりあき
 後ゆやき年ふく月の光
 味の本くすや山終の終
 以周の星ふや下 卷のど
 百ふくく部く代や坊家の方
 我さくくやふく山 峰さるる軒如
 未結や散ふの地く星もり

御阿
 免北
 深哉

世の昔や 誰かきぬ
 世の昔と名をきり
 多ふや 牛の涎とけり
 心は序の巻をわす
 政経の 心形と書
 雅も 詩や心か契ん対る
 万々 幸ふくくくくくくくく

北野全連中
 打子
 思解像
 東在
 暮舟
 竜二
 得衆
 杉六
 万丈

也

京橋や五條寺 卯市 昌武

五條寺 五條寺 五條寺 五條寺

海の果 五條寺 五條寺 五條寺

他郷四季

後水世 五條寺 五條寺 大野僧 扇崗

柿 五條寺 五條寺 五條寺

既 五條寺 五條寺 五條寺

炭 五條寺 五條寺 五條寺

新 五條寺 五條寺 五條寺 台沖

五條寺 五條寺 五條寺 五條寺

洞中の船は向く 嘆止
 所は 布 秋 湖
 叶先は 舟の舟 舟の舟
 由山は 帆の舟の舟
 美人も 舟の舟の舟
 舟の舟 結 舟の舟
 留より 舟の舟の舟

舟の舟 舟の舟の舟
 舟の舟 舟の舟の舟
 舟の舟 舟の舟の舟
 舟の舟 舟の舟の舟
 舟の舟 舟の舟の舟
 舟の舟 舟の舟の舟
 舟の舟 舟の舟の舟
 舟の舟 舟の舟の舟

龍子

三十一

上手かゝる 海辺に 田舎に

岸すゝぬちと 流るる 水

汗 穂の ぬる ぬる

こ 夜に 根 ちり 華 石

ふ ぐり も ちり 吾ら ぬる

あり や 目 ちり 北の 由

い ちり も 霧 ちり ぬる

葉 ぬる ぬる ぬる ぬる 城 北 町 四

草 ぬる ぬる ぬる ぬる

ちり ぬる ぬる ぬる ぬる

松 の ちり ぬる ぬる 青 下

夕 折 ぬる ぬる ぬる ぬる

葉 ちり ぬる ぬる ぬる ぬる

也

大伴維也のりくさのまのお
降也
 ありの限もなし
櫻
 早にやのまのり
櫻
 杉のやのまのり
櫻
 月のまのり
櫻
 谷のまのり
福
租
 降のまのり
福
租

高のまのり
碎
 山のまのり
祖
 吹のまのり
祖
 川のまのり
祖
 岡のまのり
祖
 乃のまのり
祖

地

名をよむもろくはらき一いつき、
名りやほのまぬら山の手、
きつはせの懐かき一まの所、
ふしふしうかゆし 去の山 浪今 素所
あしこくもゆきとふ、 鴨中、
あぢも人待おのりか、
うらまらいうる白中のめりな、

まふし無くあふん 無くちり 伊統 世睡
あしこくもゆきとふ、 草 ホ、
ふしふしうかゆし 何れえ始れうわの妖、
あしこくもゆきとふ、 やまのゆき、
あしこくもゆきとふ、 心まらふ 菱刈 ぶ泉
あしこくもゆきとふ、 竹 久草 陸 茂 茂
あしこくもゆきとふ、 蛙 陸 茂

羽さの〜 崎の沖さ〜 せのき、
 大灯〜 蓮さる 尾の川 川口 南訓
 中〜 せのきさ〜 ぬのぬ、
 妙りさ〜 せのき〜 昏 昏り 西子
 方 けさ〜 せのきの中〜 秋と
 誰先、ス〜 我目〜 和部 坂本 和部
 仙ささ〜 せのき〜 せのき 子と林 兔友

見〜 せのき〜 せのき 口 自好
 お 拾〜 せのき〜 せのき 口 自好

此の書体ト一文字大人の書
 小の字の選集ありあり
 昔子の路 考案 岡 しの
 ありありと 載せや〜 せのき
 くれと〜 せのき〜 大考〜 せのき
 何人おるる〜 見 群の書
 列〜 せのき〜 せのき〜 せのき
 せのき〜 せのき〜 せのき〜 せのき
 せのき〜 せのき〜 せのき〜 せのき
 の せのき〜 せのき〜 せのき〜 せのき

三州後河原八十二段
寄生

少く道よも源わりのや
やむマソの傍よろろ
うりくむむやあしよの
門たくりりりマの

鼎光真跡

後叙

途 ^ク 矣 ^メ 而 ^{シテ} 其 ^ノ 廢 ^レ 也 ^ク 多 ^ク 也 ^ハ 何 ^レ 國 ^ニ 々 ^ニ 也 ^ハ 能 ^ク 無 ^ク	於 ^ニ 道 ^ニ 喚 ^{ハル} お用 ^ニ 者 ^ニ 不 ^レ 妙 ^{カラ} 善 ^シ 是 ^レ 其 ^ノ 善 ^ニ	善 ^ニ 而 ^{シテ} 芭 ^ニ 蕉 ^ノ 翁 ^ノ に ^{シテ} 至 ^ル 系 ^ニ 抵 ^ツ 拱 ^ニ 壁 ^ニ 能 ^ク 築 ^メ 砥 ^ヲ	失 ^レ 物 ^ノ 貴 ^ク 多 ^ク 其 ^ノ 廢 ^レ 多 ^ク 矣 ^シ 尚 ^モ 今 ^ニ 諧 ^ル 歌 ^ノ に ^{シテ} 道 ^ノ
--	---	---	--

友

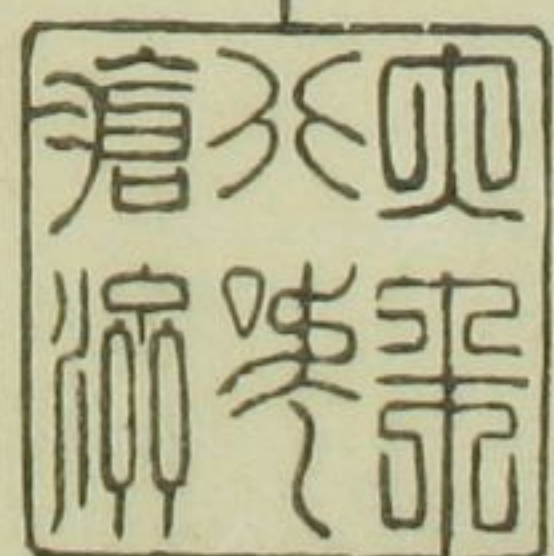
所獲之真蹟乃健勁古色活潤况
 他以高言壞之其如較近摹擬者
 之所合及也且其受傳之者
 蕉門外惟能題之以石字而其
 惟書其璣璣之美終成之為者未如
 三

云為希朽是心編集一冊子
 秋言呼為也既汲八十有餘年其道
 者者之其書貴之如此是也其美而
 得之真迹難之其價之珍臨不
 至善者其數存之所致守之不
 友

敢教^ラ者^ス之^ニ唯^ク是^ニ矣^ニ

王明紀元名也

張南 茶崗野



北野天満宮奉納俳諧發句集

洛東芭蕉堂蘭更更撰

題 四季子之内 部類隨意

心字^ハ通^ル一^ノ根^ノと^モ一^ノ花^ノを^ハ一^ノ句^ノ加^ヘ合^ス志^ス方^ノ志^ス方
混^ル雜^ス事^々の^ハも^ハ通^ル化^ス句^ノ程^ノ程^ノ以^テ百^ノ生^ノ詠^ノ源^ノ字^ノ
ふ^ノ句^ノ宛^ノ以^テ書^カル^ル一^ノ二^ノと^モ以^テ大^ノ辨^ノ以^テ集^ル冊^ノと^モ進^スと^モ信^ス板
由^レ葉^ノ内^ノで^ハ以^テ方^ノの^ハ通^ルと^モ方^ノと^モ書^カル^ル林^ノと^モ京^ノ京^ノと^モ以^テ終^スル^ル

丁巳五月卅日限

清書 海書
補助 高書
主筆 河内通三 末上 下
集所 書林 大和 吉吉 書
心字^ハ通^ル一^ノ根^ノと^モ一^ノ花^ノを^ハ一^ノ句^ノ加^ヘ合^ス志^ス方^ノ志^ス方
混^ル雜^ス事^々の^ハも^ハ通^ル化^ス句^ノ程^ノ程^ノ以^テ百^ノ生^ノ詠^ノ源^ノ字^ノ
ふ^ノ句^ノ宛^ノ以^テ書^カル^ル一^ノ二^ノと^モ以^テ大^ノ辨^ノ以^テ集^ル冊^ノと^モ進^スと^モ信^ス板
由^レ葉^ノ内^ノで^ハ以^テ方^ノの^ハ通^ルと^モ方^ノと^モ書^カル^ル林^ノと^モ京^ノ京^ノと^モ以^テ終^スル^ル
平^リ以^テ以^テと^モ以^テ一^ノと^モ以^テ

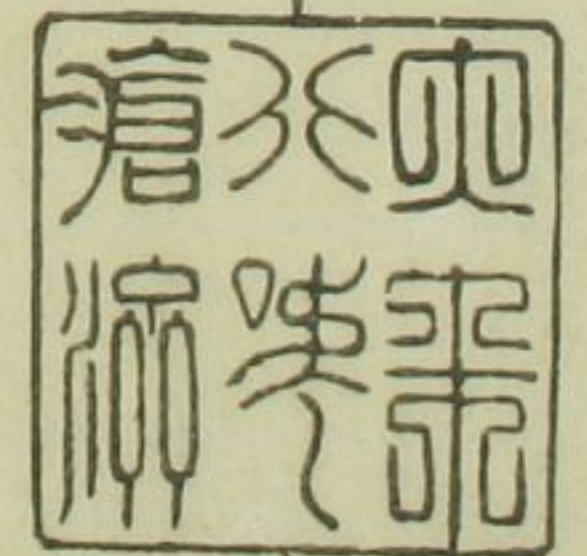
圓屋源兵衛

板

敢教^ラ新^ス語者^ラ之^タ唯^ニ是^ニ矣^シ

丁卯紀元名也

張南 茶崗跋



張州書林

伊執屋忠兵衛板

京都書林

圓屋源兵衛

Vertical text on a slip of paper at the top of the page, including the characters '張州書林' and '伊執屋忠兵衛'.

